

【資料2】

平成22年度 佐賀県立三養基高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標
平和な国家及び社会に有為の人材を育成するため、校訓「質実剛健」のもと、自主自律の精神の涵養をとおして、知・徳・体の調和のとれた教育をめざす

2 学校経営ビジョン
「文武両道に励むことによって心も鍛え、社会貢献のできる人材を育成する。」 旧制中学校からの優れた伝統に恥じない実績を求め、自信と誇りに満ち、そして凜とした校風を樹立し、県東部の雄としての誉れを確立し発展させる。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>「基礎学力の伸長」「生徒の魂を奮いたたせる教育」 (導入)</p> <p>「学習指導のさらなる充実」 「心身の鍛練と意欲と生命に関わる教育を念頭に置く」 (展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導の充実と希望進路の実現 ・部活動、生徒会活動のさらなる充実と振興 ・基本的生活習慣の確立とボランティア活動の奨励 	<p>学校運営、教育活動、特定課題の各項目における取り組みについての評価は、概ね成果を上げることができたというものであった。特に、生徒指導と危機管理については、充実した内容で大きな収穫が得られた。一方で、家庭学習時間が不足している問題、また1年次からの学習指導の流れとその進学実績まで含めた成果について検討し、更なる積極的で効果的な指導展開の方法を模索していく必要がある。その他の学習・生活・部活動の分野でも、継続した取り組みによって、工夫改善を進め、より大きな成果を生み出した。</p> <p>学校経営ビジョン「文武両道に励むことによって心も鍛え、社会貢献のできる人材を育成する」のもと、教職員・生徒・保護者が心をひとつにして目標実現をはかることとする。</p>

5 総括表						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	評価及びその理由	具体的方策	成果と課題
学校運営	○学校経営方針	本年度重点目標の周知	重点目標を知っている保護者の割合を65%以上にする。	B ・年度初めの地区別保護者会やPTA総会の資料に掲載し説明した。 ・広報研修部としては、学校だより「質実剛健」をほぼ毎月発行し、ホームページをこまめに更新することによって、保護者の関心を喚起し、重点目標の周知を図ることができたと思う。	・保護者会、PTA総会、学校だより、学校のホームページ等を通して周知を図る。	・まだ十分周知できていないと思われる時もあるので、これからは生徒を通じて保護者への周知を図ることも必要である。そのためには、全校集会、学年集会の集会・各クラスのホームルームで生徒に話をすること等が効果的と思われる。
			○学校環境整備	校内美化活動の充実	校内美化への意識を高め80%以上が満足できる環境にする。	B ・掃除時間には、生徒会の協力により放送や音楽を流すなどの継続的取り組みにより、意識は向上した。 ・おむね掃除はできたと思うが、区域による差はあった。
	紙類の使用量の削減、電気・水道等の節減に努め、環境整備予算を捻出する。	B ・紙類の使用量は横ばいだが、電気・水道の使用料は削減されている。 ・コピー料は単価減により減少している。			・用紙類裏面、縮小、集約コピーを効果的に使用する。 ・節電節水を励行する。	・プリンタよりコピーへの印刷が増えている。 ・用紙は必要枚数があり削減は限度に来ている。 ・教室棟の電気・冷暖房はこまめな消灯、節約が必要である。
		施設設備の充実	安全を確保するため、危険箇所の廃除及び施設・設備の有効利用に努める。	B ・早期発見、早期補修により危険箇所の排除に努めた。 ・校内排水溝の整備を実施した	・安全点検により危険箇所の早期把握に努め、排除を徹底する。 ・校内の排水整備に努める。	・危険箇所の排除は、ほぼ出来た。来年度教室棟改築本設計で全体的改修を検討する必要がある。 ・校内排水溝の整備は毎年計画的に実施する必要がある。

	○危機管理	危機管理体制の整備	危機管理体制の周知	B	<ul style="list-style-type: none"> ・危機事象への対応基準マニュアル(携帯版)を全職員に配布し、把握している。危機管理マニュアルは教頭席横に常置している。 ・文科省作成DVDを使用して、学校安全に関する研修を実施した。 ・特に学校情報携帯メールの登録率が1・2年においては100%になり、緊急連絡体制はHPとも併せてかなり充実してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備された危機管理マニュアルを確認し、常に活用できる状況にしておく。 ・HPやEDQスクールニュース及び学校情報携帯メールの利用による迅速な連絡体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機事象への対応基準表の確認と説明周知はできているものの、実際に高レベルな対応が必要となった場合は混乱することも予想できる。効果的な研修を実施することが必要である。 ・保護者(家庭)への連絡体制は充実してきた。さらに来年度の新入生の保護者に広報して緊急携帯メールの登録率を全校100%を目指す。4月末の全校登山をその機会としたい。また、HPの改良により、緊急連絡体制を万全のものとする。
	●健康・体づくり	安全教育・健康管理の充実	安全の確保・衛生の徹底	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回実施される安全点検によって、危険箇所の改善・補修が迅速に実施でき、生徒・職員の安全が確保できた。 ・「保健だより」をほぼ毎月発行し、季節に応じた健康問題について情報提供ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、安全点検を実施する。 ・定期・不定期の巡回を行い、日常の安全意識を高める。 ・保健便りを発行し衛生意識を高める。 ・保健体育の授業との連携を強化し、安全・健康講話などをとおして、安全教育、健康教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室棟の建て替えが行われるため一部根本的補修ができない部分があるが補修箇所については迅速に補修で来た。 ・今後も「保健だより」を定期的に発行し、健康に関する情報をタイムリーに提供する。
	○教職員の資質向上	評価・育成システムの利用	評価・育成システムに掲げた目標を達成する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導、生徒指導、校務分掌において自己の目標を明確にし、その取り組みについて自己評価を行なう。目標を持って意識することにより、職務の計画性が高まり、よりよい結果に導いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導、生徒指導、事務処理の向上を目指して指導・助言し、研修の案内をする。また、授業参観や面談などをとおして、職員の資質向上を直接支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確化することで、職務に意欲を持って計画的に取り組むことができている。また校長との面談や評価により、職務の方向性と課題の確認ができている。 ・学期ごとに目標や達成度の確認をして、さらに具体的方策を練って取り組むことが必要である。
教育活動	●学力向上	学習指導の充実	評価基準を明確にし、教材観の統一を図り指導方法の向上に努め、生徒の80%以上がわかり50%以上がよく分かりできるようにする。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・4月当初にシラバスを配布することができ、職員の共通理解はもとより、生徒の理解につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科・科目ごとに年間指導計画と評価計画を検証し改訂する。 ・教材の共有化と開発を促進する。 ・職員対象の公開授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒へもっとシラバスの活用法を伝える必要がある。
		大学入試問題の研究	主要大学の入試問題研究を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・受験頻度の高い大学を始めとした主要大学の問題研究は十分にできた。 ・小論文入試についても外部講師を招いての研究会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとに主要大学の入試問題を研究し、分析会をもち、教科指導に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年の指導をどのように入試問題につないでいくかを各教科で研究する必要がある。
		家庭学習の充実	家庭学習時間(1時間+学年)の70%以上の達成を図る。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間調査では、特に1・2年生の平日の学習時間が、平均すると1時間不足である。家庭学習時間が定着していない。 ・(3年)放課後課外や居残り学習を合わせて概ね学習時間の確保はできていたが、内容の充実度は十分とは言えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに全校一斉に学習時間を調査し、結果を集計し、指導に役立てる。 ・予習→授業→復習の学習サイクルを定着させる。 ・質量ともに適切な課題を課し、その提出を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を各学年・進路指導部等と検討する機会を設けて、学校全体で検討する必要がある。(3年)総体後の切り替えはもちろんだが、総体までの学習時間の確保も必要である。
○開かれた学校づくり	授業参観の実施	保護者対象の授業参観を年2回実施する。参加者数を前年より増加させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の授業参観を予定通りに年間2回は実施することができた。 ・広報研修部としては、ホームページをこまめに更新することによって、保護者の関心を喚起したと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA行事との連携を図る。 ・HPやEDQスクールニュースの利用を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも同様の広報活動を続けていきたい。そのために多くの方々のアドバイスを求めたい。 	
	広報活動の充実	本校の教育目標や教育活動を分かりやすい形でタイムリーに発信する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより「質実剛健」の発行、ホームページの更新、事務室前のパネル展示を通して、よりタイムリーにかつ詳しく生徒・保護者へ教育活動の発信ができたと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パネル展示を充実させる。 ・ホームページを充実させる。 ・学校だよりを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も同様の広報活動を続け、さらに充実させていきたい。そのために多くの方々のアドバイスを求めていきたい。 	

○生徒指導	生徒の理解	個々の生徒に応じた指導助言ができるようにする。	B	・面談週間だけでなく、必要に応じて進路や志願先の決定に向けて面談を行うことができた。	・面談週間を設定し、年3回実施する。 ・担任どうし、教科担当者どうしの連携を強化し、生徒を幅広く見る。 ・スクールアドバイザーと連携する。	・生徒との面談だけでなく、保護者との意思疎通を十分に図る必要がある。
	基本的生活習慣の確立	授業開始時の完全準備着席率100%の達成を図る。	A	・おおむね達成できた。移動教室の授業の時に、遅れる傾向があった。	・担当教師は1分前に教室に入り着席と準備をさせる。 ・総体後のノーチャイムを実施する。	・1年次の指導をきちんとやれば、ノーチャイムでもスムーズに授業を展開できる。
		出席率99%以上の達成を図る。	A	・1学期は、99～100%を推移していた。年度後半から、97～98%になる月があった。	・月ごとの出欠統計を有効に活用する。 ・皆勤賞表彰を実施する。	・今後も、欠席の多くなりかけている生徒等の実態把握にも活用していきたい。
	服装指導の徹底を図り、問題行動の未然防止を図る。	A	・月1回の服装頭髪指導と再指導によって効果がみられ、大きな乱れはなかった。 ・校門指導については、今後も是非続けていくべき効果ある指導である。	・服装指導の再指導を実施し、再々指導を徹底する。 ・毎日早朝の校門指導を実施する。 ・学期に1回、一斉校門指導と校外指導を実施する。 ・学期に数回、昼休みに校内を巡視する。	・服装頭髪に関して、違反を繰り返す生徒は一部に限られており、そうした生徒に対する個別指導に工夫を要する。 ・服装頭髪をはじめ、指導に関して全職員が共通の基準であたり、ぶれのない指導を継続できるような生徒指導部で主導していきたい。	
	挨拶の励行や礼法指導を強化する。	A	・挨拶については、朝の校門指導で生徒の実態を見ながら指導し、ある程度の成果はあった。日常あらゆる場での指導にあたる意識を徹底したい。	・教職員自らが手本となり挨拶や礼儀作法を指導する。	・登下校時はもちろん、地域の人たちへの挨拶・マナーなども行き渡るように指導したい。本校は大人しく声が小さい生徒が多いので、挨拶を通じた積極的な姿勢を育てていくことも大切である。	
	中学校との連携強化を図る。	A	・情報交換の中で入学後の指導に役立つ情報が得られ、効果がある。	・5月に中学校訪問を実施する。 ・高校での指導の周知を図ると同時に中学校への広報を徹底する。	・本校のPRも含めて、今後も実施していきたい。	
	保護者との連携強化を図る。	B	・回数に限られており、周知徹底とまでは至っていない。三者面談時に担任を通じ、校則・指導に関するプリント配布などでカバーしてきた。	・地区保護者会、学年保護者会を利用してさらに連携を強化する。	・学校の指導に対して、疑問や異なる意見を持たれている保護者もあるが、さらに理解と協力が得られるように、広報誌の工夫や広報研修部との連携を図っていきたい。	
	部活動入部率の80%以上達成を図る。	B	・今年度は、約83%の加入状況であった。	・部活動への入部を奨励する。 ・部室、練習場等の環境整備に努める。	・女子の運動部加入人数が著しく低下している。 ・部活動の方向性について、熟慮の必要性を感じる。	
○進路指導	進路意識の啓発	生徒全員が自己の将来に対する考えを深化させ、具体化させることができるようにする。	A	・小論文ノートを用いた総合学習の時間に十分進路について考えさせることができた。 ・オープンキャンパスに参加させレポートを提出させた。また、佐賀大学のオープンキャンパスには全員が参加できた。 ・佐賀大学とのジョイントセミナーでは他の大学も招待して学部学科の研究を行わせた。 ・キャリア講演会(1回)と進路講演会(2回)を実施した。 ・全学年進路検討会を実施して生徒の進路状況を把握することができた。	・小論文ノートを有効に活用する。 ・職業研究を実施する。 ・オープンキャンパスへの全員参加を促進する。 ・大学とのジョイントセミナーを実施する。 ・学部学科研究を実施する。 ・学期ごとに進路希望調査を実施する。	・生徒が自主的に進路を切り開けるような仕掛けを考える必要がある。
	進路希望の達成	入試情報を収集研究し、進路実現に役立てる。	B	・入試の研究会等に積極的に参加することができた。また、職員会議等で適宜情報提供を行うことができた。 ・学年保護者会等や三者面談時の資料を提供することができた。	・大学説明会や予備校等の入試情報研修会に積極的に参加し情報の共有化を図る。 ・生徒、保護者が必要とする進路情報を的確に提供する。希望進路実現に必要な力を明示する。	・3年間を見通した情報提供の方法を研究する必要がある。

			国公立大学合格数80名の達成を図る。	B	・(3年)平成23年度大学入試における国公立大学合格者数は41名であった。	・教科・学年ごとに模試の目標偏差値を設定する。 ・模試の結果や入試問題を教科・学年ごとに分析し、学習指導に役立てる。 ・学年ごとに進路検討会を実施し、課題や改善策を検討する。	・私立大学合格実績は例年と同等であるが、国公立大学の合格数としては例年より低い値となった。しかし、九州大2、筑波大1、熊本大4等、質的には今後につながるよい結果が得られている。 ・(3年)学年・教科・分掌の連携を図った指導体制が必要である。
	○読書指導	読書の励行・習慣化	図書貸し出し数前年度比10%増加を図る。	B	・朝読書はおおむね定着しつつある。惰性的でなく、質的な習慣化のため、さらに模索が必要。 ・広報は、図書便り、ディスプレイ等を創意工夫して、利用者数の増加を心がけた。 ・貸出数は前年度比73.7%増を達成。新着図書の選定もバランスをとって、行った。	・毎日、朝読書を実施する。 ・広報を充実させる。 ・蔵書を充実させる。	・朝読書のさらなる質的充実。 ・図書室利用の定着、習慣化。 ・蔵書点検の実施による、蔵書の適正化(新旧図書の点検、歴史の流れの中で、真に必要なものの選定) ・生徒の能動的図書利用のサポート。
特定課題	○国際感覚の育成	異文化理解の推進	コミュニケーション能力テストで、生徒の7割を実用英検準2級に相当するレベルに到達させる。	A	スピーチコンテストやALTの授業での活用、イングリッシュデイなどを通して、生徒のコミュニケーション能力を向上させることができた。	・コミュニケーション能力テストを年1回実施する。 ・ALTを授業で活用し、積極的な交流を推進する。 ・本校で年に3回実用英検1次試験を実施する。	・コミュニケーション能力の向上のためには1年次よりリスニング指導を継続的に進めなければならない。 ・実用英語検定実施への周知徹底を図り、受験者増につなぎたい。
			海外派遣事業の継続実施。	A	・今年度は実施することができた。特に各学年から参加者が出たことも良かったと思う。	・人材育成事業を活用する。	・来年度も続けて実施できるよう、生徒への広報活動を含めて、条件整備に努めたい。
	●心の教育	ボランティア活動の推進	学校周辺の清掃活動の実施や、中原養護学校との交流を図る。	A	・全学年での清掃活動の実施および2年生では学年をあげて趣旨を示して生徒の意識付けを行ない、放課後の時間帯を利用して校内外の清掃活動を実施するなど、生徒の自主的な活動ができたと評価できる。 ・吹奏楽部と中原養護学校との交流会はお互いの演奏を鑑賞しあったり楽器の演奏体験の時間をとおして交流を深めることができた。	・生徒会を中心として中原駅や学校周辺の清掃活動を実施する。 ・全校生徒による学校周辺の清掃活動を実施する。 ・吹奏楽部の演奏を通して中原養護学校との交流会や地域文化行事への参加を実施する。	・昨年度までは生徒会やPTA主催のボランティア活動であったが、今年度は第2学年でも実施していただいたことは、生徒のボランティア精神の高揚に大変有効なものとなった。次年度以降も分掌や学年・PTAなど各方面からのご指導や助言を頂き、継続して取り組んでいきたい。また、吹奏楽部の中原養護学校との交流会やみやき町との連携など学校外での交流を盛んにしていきたい。
	○情報機器の活用	情報機器の授業校務両面での活用	情報機器を授業で活用し生徒の理解を高める。情報機器を使いこなす校務の迅速化・効率化を図る。	B	・ICT支援員と連携し、ホームページの活用・更新及び校務の迅速化・効率化を進めることができた。 ・学校情報携帯メール配信事業により、保護者への迅速で情報提供を行うことができた。	・月に1回以上、授業での情報機器の活用を図る。 ・情報機器の活用研修会を実施する。 ・ICT支援員と連携し、授業での情報機器の活用及び校務の迅速化・効率化を進める。	・機器の活用に敷居の高い職員の支援に、ICT支援員を通じてさらなる支援を行う。

●は共通評価項目、○は独自評価項目

6 総合評価

学校経営ビジョンの「文武両道に励むことにより心も鍛え、社会貢献のできる人材を育成する」を昨年度に続いて掲げ、各校務分掌・各学年を中心に各領域で各設定目標に向けて工夫して取り組んできた。各々の内容は昨年度の取り組みを引き継いでおり、より目標に近づけるよう取り組んでいるため、評価のA・B・Cについては昨年度と比べ同等であるが、いずれも内容的には改良を加え進化している。また、生徒や保護者の評価を活かし、また協力を得ながら進めることができた。

具体的には、危機管理、生徒指導、進路指導また特定課題においても計画的に順調に取り組みを進め、本校の普通校進学校としての基礎は固まってきている。課題は学力向上と進路保障にあり、家庭学習習慣の確立を含み、1学年からより計画的に布石を打っていくことが必要である。

7 来年度の改善策

本校の最も優れている点は落ち着いた教育環境を保っていることにある。学業に部活動に邁進できる環境が整っている。その根底にあるのは生徒指導体制の充実であり、この点をきちんと踏襲していくことがまず大切である。また、当然計画的に努力して取り組んでいるものの、家庭学習時間の低迷も影響して、学力向上については結果的には後手に回っている部分がある。これをどのように改善していくかが大きな課題となる。早め早めに学習に取り組むことがひいては進路実現につながることを生徒達にうまく伝える方策をキャリア教育の視点からも考え・実践していく。